

平成23年2月25日  
電子情報通信学会会長  
津田 俊隆

## 中長期標準化戦略について

### 1. 効果を挙げるために

個々の技術も重要であるが、できれば大きなビジョンを打ち出し、一つの流れを作り、流れに沿った戦略的な幅広い活動を展開すると、大きな効果が上がると考える。特にデジタル型の産業分野では、日本が優位に立つために標準化すべき事と標準化すべきでない事の見極めなどの戦略的議論が行える場が必要であると考え。

(分野について)

- 日本が強みを持っていると自他共に認められている分野。
- 世界共通問題で、取り組みの強化が始まろうとしている分野を先駆けて。
- 国内の社会問題にICTで有効な解決手段を提供できる分野。

(取り組み施策について)

- 国際連携の推進。
- 国内で内容議論のできる場の提供。
- 国の研究開発プロジェクトと連携して、他国に先駆けて実証・サービス開始する。
- 国際的に活躍できる人を育成する。

### 2. 情報通信関連で有効な分野

(フォトニックネットワーク)

- 日本が強みを保持している
- 益々増大する情報を收容し、且つ世界共通問題であるグリーン化を実現するには、光でのスイッチングを含めた本格的なフォトニックネットワークの実現が大きな方向。
- 世界でも、フォトニック層のダイナミックな制御議論が始まっている。

(センサーネットワーク)

- 高齢化問題、食の自給・安全性問題、環境問題等にICTは大きな寄与ができるが、状況把握は基本となる技術。
- 既に色々な標準化活動は行われているが、社会問題解決に寄与するためには未だ不十分。
- 日本で世界に先駆けて問題が顕在化しているものが多くあり、実際に解決策を実施する過程で抜けのない標準化ができる可能性がある。
- 標準を作ることで、世界各地で開発されている様々なセンサーが幅広く使えること

になり、より安価で豊富な情報を集めることができる。

(ロボット通信)

- 日本はロボット先進国。ロボット通信の取り組みも先行している。
- ロボット通信は、介護支援はもとより、将来のストレスがない人間とのインターフェイスにもなるため、高齢化やデジタルディバイド問題解決の武器となりうる。

(交通・運輸関連システム)

- 交通・運輸は、日本が先行する「CO<sub>2</sub>削減」、「安心・安全」の観点から戦略的に追求すべき分野である。
- 日本での実績のあるITS、鉄道運行、海上航行等へのICT技術の高度な適用で先導することが出来る。
- RFIDによる運輸物流の効率化には国際標準化が不可欠であり、日本の技術の強み活かしたグローバルな展開が望まれる。

3. 取り組み施策について、電子情報通信学会の貢献可能性について

- 組織として規格委員会を持ち、IEC標準化活動を行っている。現在、フォーラム等の活動にも幅を広げられないか検討中。
- 議論の場の設定は身軽にできる。
- 海外の学会との姉妹協定締結を行っており、学会同士のチャンネルを活用する可能性がある。国内の他学会との協力経験も多く、分野をまたがる連携が図りやすい。
- アジア地区については、8の海外セクションを持っており、海外連携に役立てる可能性がある。
- 技術ロードマップを作成しており、関連分野の技術動向について専門家の見解を集めることが可能。